

## 中学生の子どもを持つ親 1,000 名へ “スキンシップと親子関係” についてのアンケート調査

小学生から積極的にスキンシップを取っていた親子は、  
中学生になっても一緒にお風呂に入っている**仲良し親子が 5 組に 1 組**  
小さい頃からのスキンシップが**学業にも影響あり**

「スキンシップをした人もされた人もオキシトシンという脳内ホルモンが分泌され、  
効果として愛情を育んだり、記憶力を活性化させる」桜美林大学 山口創准教授

ゴールドコースト観光局（クイーンズランド州ゴールドコースト CEO：マーティン・ウィンター）  
およびクイーンズランド州政府観光局（クイーンズランド州ブリスベン CEO：リアン・コーディントン）  
の日本事務所（港区虎ノ門 日本局長：西澤利明）は、ゴールドコーストのキャラクター“ビリーが  
親子のスキンシップを奨励していることから”内閣府が定める「家族の週間（11月10日から23日）」  
に合わせて、中学生の子どもを持つ親 1,000 名に“スキンシップと親子関係（日本国内）”について独  
自で調査を行いました。



【親子のスキンシップを奨励するビリーとは】

コアラの子どもは生まれてから母親の袋の中で過ごし、生後6ヶ月前後で袋  
から出ておんぶをしてもらいながら育ちます。コアラの親子は、スキンシップ  
の象徴でもあります。

ゴールドコーストのキャラクターとして日本で活躍するコアラ「ビリー」は、  
そんな親子のスキンシップ奨励をひとつのコンセプトとしています。

## ◆中学生の子どもを持つ親 1,000 名に “スキンシップと親子関係” についてのアンケート調査

### 【1】スキンシップを取っていた親子は、反抗期を迎える中学生になっても約7割が“親子関係が良好”と回答。

スキンシップを取っていた親子は、約70%が現在も親子関係が「良好」と回答し、一方、スキンシップを取っ  
てこなかった家庭は、約18%しか親子関係が「良好」だと回答しませんでした。小学校時代に意図的にスキンシ  
ップを取ることが、その後の親子関係に大きな影響を与えることを示唆しました。

### 【2】スキンシップの有無は学業にも大きな影響を与えていることを示唆。

親子のスキンシップは、子どもの学業にも何らかの影響を与えていた可能性が示されました。親子のスキンシ  
ップを意図的に取っていた親子は、子どもの成績が「良い」と回答したのが27%、「悪い」と回答したのが9%  
でした。一方、親子のスキンシップを取っていなかった子どもの成績が「良い」と回答したのは15%、「悪い」  
と回答したのは24%にものぼりました。

スキンシップの 程度	成績良し	成績悪い
よくした	27%	10%
しなかった	15%	24%

### 【3】中学生になっても一緒にお風呂へ入っている仲良し親子が5組に1組。

密接なコミュニケーションが取れ、裸（本音）のコミュニケーションが取れる空間とも言われるお風呂。  
今回の調査の中でスキンシップを密接に取っている親子の3割が小学校5年・6年でも一緒にお風呂に入っており、さらには約2割の親が中学生の子どもと一緒に  
お風呂に入っていることが分かりました。一方、スキンシップをとってこなかった親子は、小学校5年・6年で一緒にお風呂に入っている家庭はわずか1割  
でした。

「どの親子も思春期を境にスキンシップは減ってしまうが、ワンポイント型のスキンシップ（肩をたたくなど）  
を継続することで心の交流が期待できます」と桜美林大学山口准教授からのコメントをいただきました。

報道関係者各位

【専門家コメント】

桜美林大学 山口創准教授(専門:身体心理学) 主な著書『子どもの「脳」は肌にある』(光文社)

スキンシップをすると、した人もされた人も脳内からオキシトシンというホルモンが分泌されることで愛情が育まれ、信頼する気持ちがお互いに強まる効果があります。

そのため子どもの時に積極的にスキンシップを取ると、お互いに強い愛情が育まれ長期的に良好な関係を築くことができます。さらにオキシトシンは、記憶力を活性化させる効果もあるとされ、学力向上にも間接的な効果があるといわれております。オキシトシンの効果は生涯脳内に残るといわれております。

母子の代表的なスキンシップである“だっこ”は、子どもへ密接したコミュニケーションにより、自分が受け入れられ大切にされているのだということで情緒を安定させる効果があり、父子の代表的なスキンシップである“おんぶ”は、同じ目線になることで子どもに外へ目線を向かわせことで社会性をつける上で効果があります。

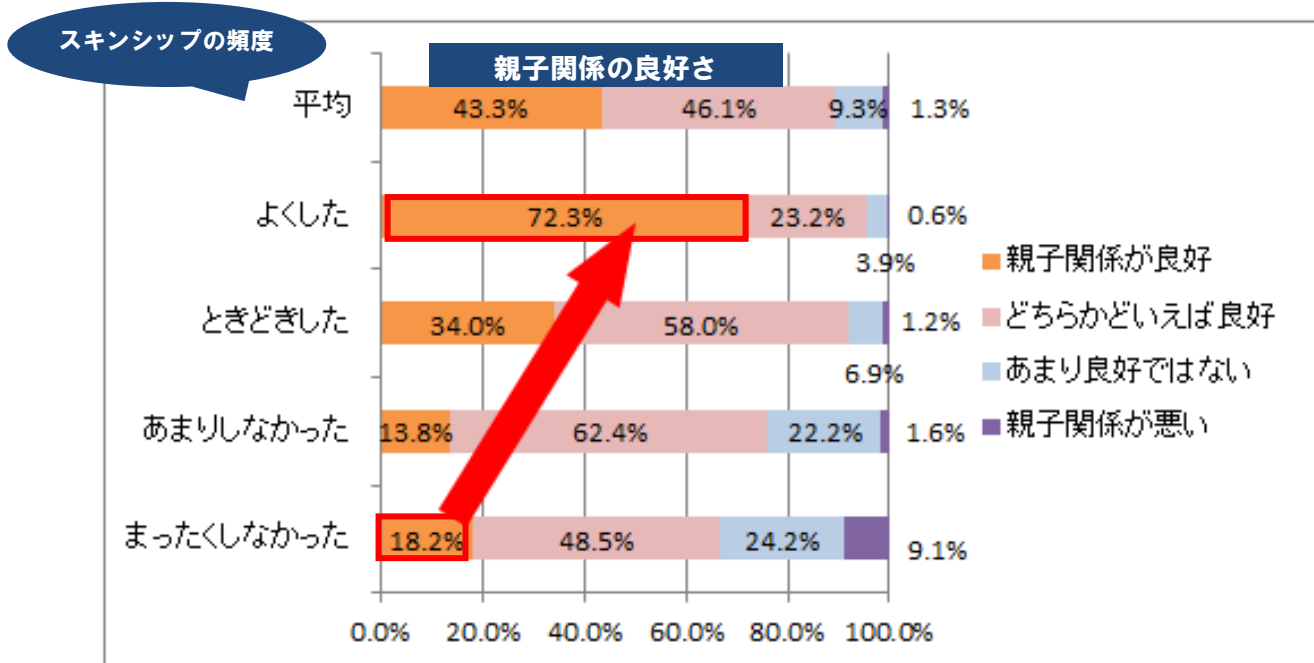
【調査概要】

1. 調査の方法：株式会社ネオマーケティングが運営するアンケートサイト「アイリサーチ」のシステムを利用したWEBアンケート方式で実施
2. 調査の対象：アイリサーチ登録モニターのうち、中学生の子どもを持つ男女（全国）
3. 回答数：1,000人
4. 調査実施日：2013年10月22日(火)～2013年10月24日(木)

【下記調査結果】

Q1 現在、中学生のお子様との親子関係は良好ですか？

※小学生時にとったスキンシップ頻度順（5段階）

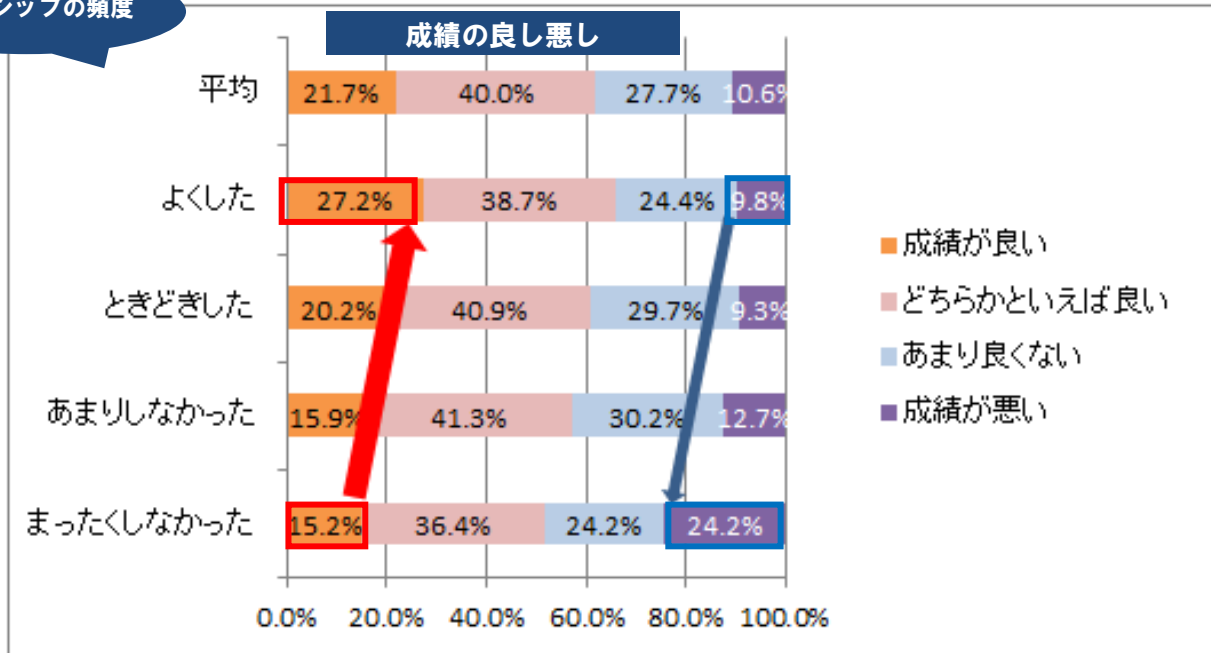


子どもが小学生時にスキンシップをした場合、中学に入っても関係が「良好」と返答したのは約72%、まったくしなかった場合は、関係が「良好」と返答したのは約18%と3倍以上の開きがあった。

Q2 現在、お子様の成績は良いですか？

※小学生時にとったスキンシップ頻度順（5段階）

スキンシップの頻度

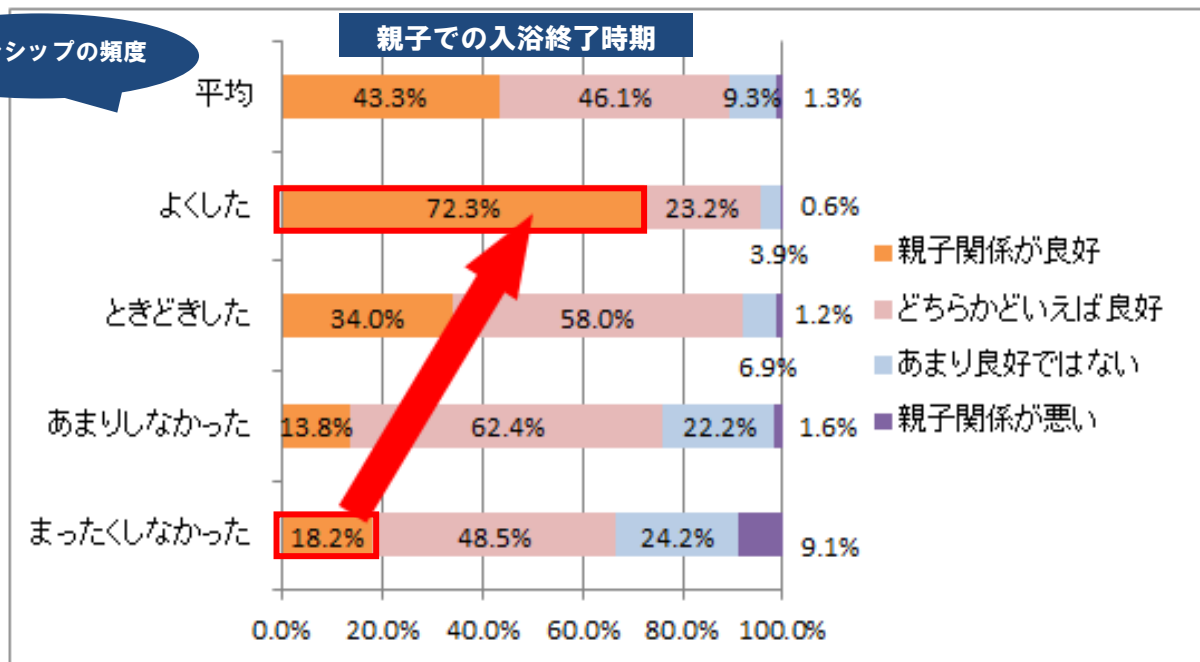


小学生時のスキンシップの頻度が子どもの成績についても影響がある可能性が示された。

Q3 お子様といつまで一緒にお風呂に入りましたか？

※小学生時にとったスキンシップ頻度順（5段階）

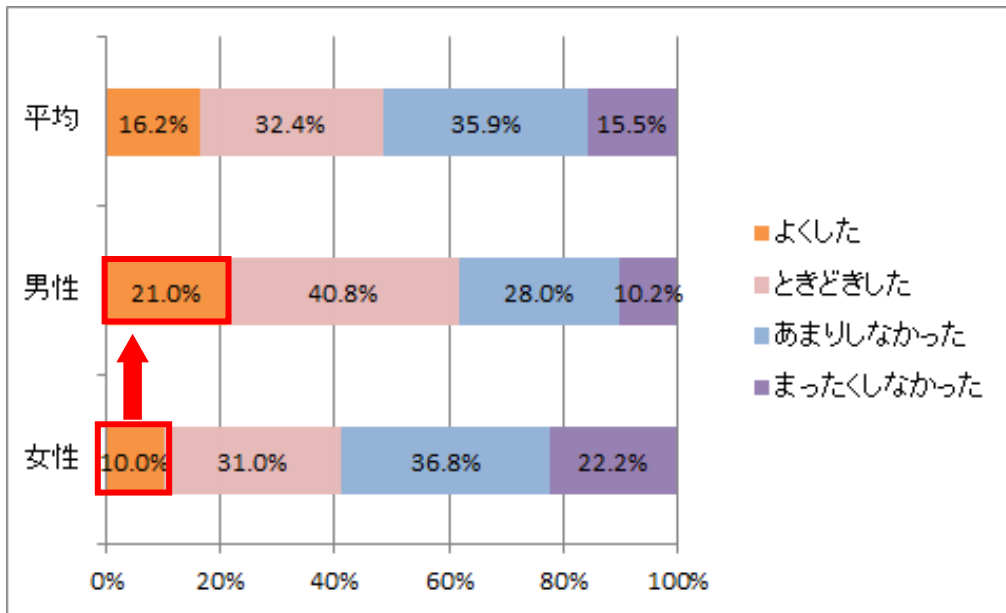
スキンシップの頻度



継続的にスキンシップをとっていた親子は、とっていない親子と比べ、2倍以上も一緒に入浴している。とっていない親子の約2割は、「全く一緒にお風呂に入ってこなかった」と回答。

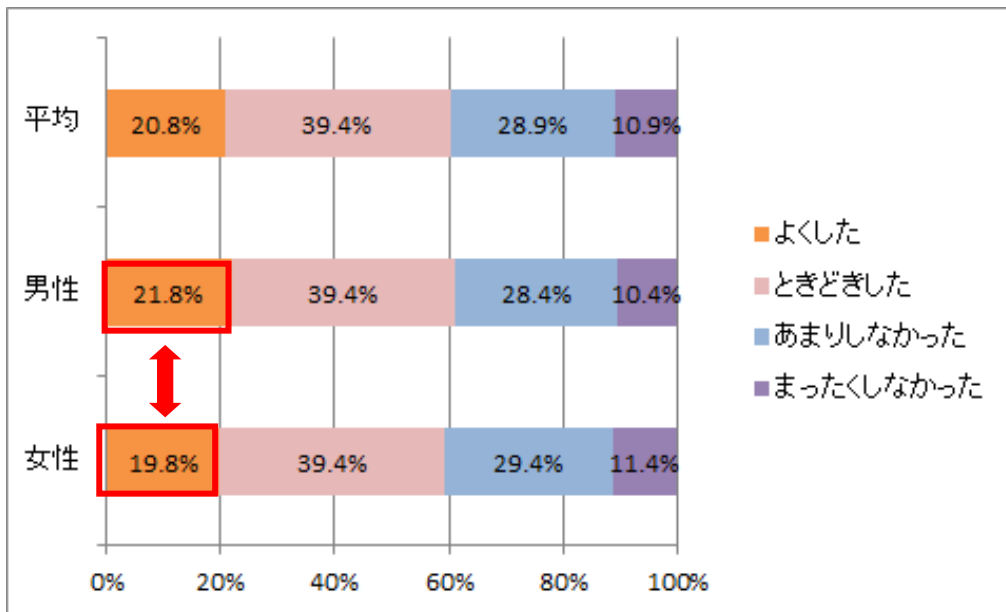
報道関係者各位

Q4 お子様が小学生になってから、あなたはお子様をおんぶしたことがありましたか？



スキンシップの相手としては、母親が多く見られたか、「おんぶ」については父親が、母親よりも積極的に実施しているとの結果に。

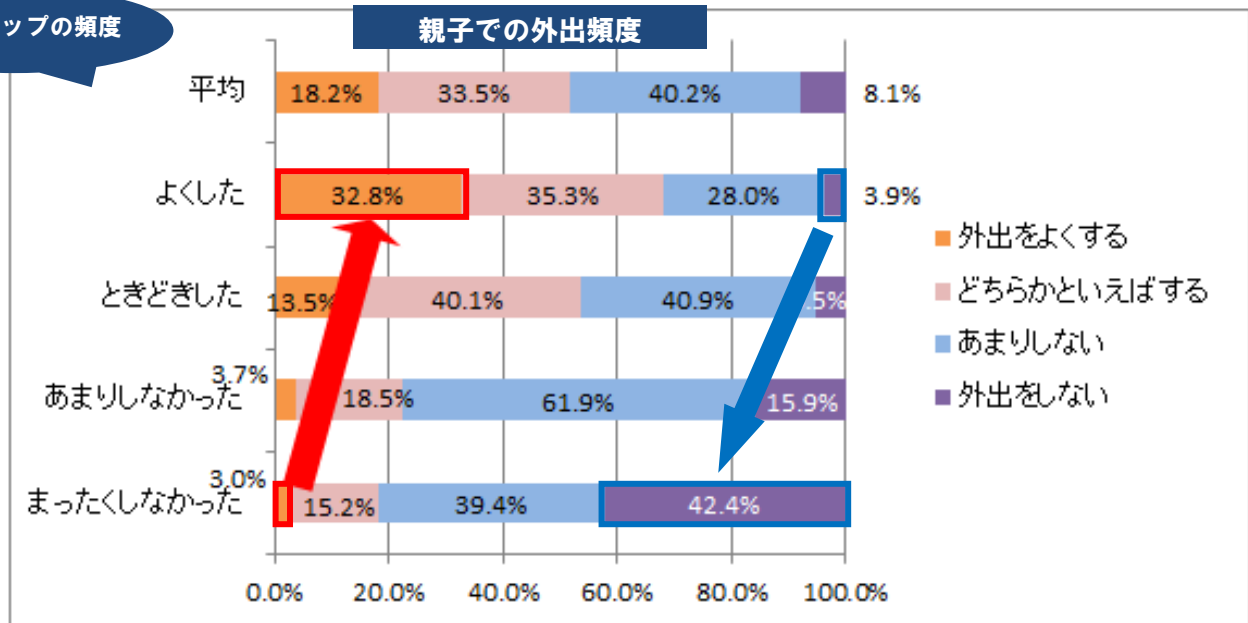
Q5 お子様が小学生になってから、あなたはお子様をだっこしたことがありましたか？



だっこは母親の代表的スキンシップであるが、母親・父親とも積極的に実施している様子が明らかになった。

Q6 現在、お子様と一緒に週末など外出しますか？

※小学生時にとったスキンシップ頻度順（5段階）



中学生になってから一緒に外出する比率は、小学生時のスキンシップの有無が大きな影響を与えている。

#### 【アプリ告知】

12月12日(木)には、株式会社学研教育出版の協力により“親子のスキンシップ”をテーマにしたデジタル絵本「ビリーの不思議サイエンス“伝説のエッグ・ロック”」(android/iOS)をリリースする予定になっております。

#### 【関連情報】

HP(今回の調査リリースの情報が掲載されております) <http://billikoala.jp/>

Facebook(ビリーの日常を発信しております) <https://www.facebook.com/billikoala>

#### 【引用・転載時のクレジット表記のお願い】

掲載に際しては「ゴールドコースト観光局(<http://billikoala.jp/>)調べ」と明記ください。

#### 【本件に関するお問い合わせ先】

PR事務局 (ビルコム株式会社 [BILCOM, Inc.])  
担当: 尾崎大樹(おざき たいじゅ)、曾根圭輔(そね けいすけ)  
tel: 03-5413-2411 / fax: 03-5413-2412  
〒106-0032 東京都港区六本木6-2-31 六本木ヒルズノースタワー11F